

揖斐農林事務所の普及活動状況 令和4年7月27日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 第2回アスパラガス帰農塾開講

揖斐地域では、平成23年からアスパラガスの新産地化に向け「アスパラガス帰農塾」を開催している。

7月16日に第2回の帰農塾が開催され、塾生3名が出席した。農業普及課よりアスパラガスの定植方法などの栽培管理について説明を行った後、参加者全員で池田町内の栽培農家において、収穫実習、出荷調整の実習を行った。出席者は熱心に実習を行い、質問も積極的であった。

農業普及課は、今後も帰農塾を支援し、新規就農者の育成と産地拡大を進めていく。



【収穫を行う受講生】

■かき 帰農塾フォローアップ研修の開催

7月9日に、J Aいび川主催の柿帰農塾フォローアップ研修が開催され今回5名が出席した。フォローアップ研修は、過去に柿帰農塾を卒業した塾生が対象で、日常の柿管理における課題解決の場として設定されている。

室内研修では、農業普及課から「効果の上がる病害虫防除」をテーマに講義し、現地研修では、大野町かき振興会技術部員から摘果方法等栽培管理技術の指導が行われた。

塾生は、柿管理作業における疑問点について積極的に質問していた。今年新たにかき振興会への加入を希望している塾生2名の参加もあり、産地の担い手育成につながっている。



【研修会の様子】

■かき 大野町かき振興会女性部視察研修会の開催

大野町かき振興会女性部では、各々が農業経営を実践しながら、栽培技術を高め、また組織として加工品の開発等行い積極的に活動している。

6月30日に視察研修会が開催され、女性部員20名が出席し、大野町内の優良柿園を視察し、園主から柿の栽培管理技術をはじめ経営方針の説明を受け、農業普及課からも助言指導を行った。

出席した女性部員からは、活発に意見や質問があり、充実した研修会となった。



【視察研修会の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■採種圃栽培研修会 大野町採種圃生産組合

大野町採種圃生産組合では、米（ハツシモ岐阜 SL）8ha、小麦（イワイノダイチ）42ha、大豆（フクユタカ）25ha で種子生産を行い、本県の採種事業を支えている。

7月14日に大野町採種圃生産組合の総会が行われ、令和3年度は米、小麦、大豆全てにおいて、計画どおり種子生産が行われたことが報告された。

農業普及課からは、総会後の栽培研修会で、近年作柄が不安定となっている大豆を中心に安定生産に向けた栽培管理の確認を行った。



【研修会の様子】

■いちご いちご組合通常総会を開催

令和3年産いちごの生産が終了し、各地区で対面による通常総会が開催され、次年度に向けての活動が検討された。安全、安心で高品質ないちご生産や、生産者同士の交流による技術研鑽等の基本方針が提案され、承認された。

農業普及課からは、総会後に栽培研修を行い、育苗中の栽培管理のポイントや子苗の肥培管理、高温対策等について、情報提供を行った。今後も部会活動について支援を行い、揖斐地域のいちご生産振興を図っていく。



【総会の様子】

地域資源を活かした農村づくり

■飛騨・美濃伝統野菜の認定に伴う県農政部長面談 ふるさと春日村づくり協議会

7月11日に、揖斐川町長とふるさと春日村づくり協議会が、飛騨・美濃伝統野菜の認定のお礼に岐阜県庁を訪問した。雨宮農政部長との面談では、春日地域の伝統的な農産物であり3月に認定を受けた「春日きゅうり」「春日豆」「こんぶり」の現物を紹介しながら今後の地域づくりについて意見交流を行った。併せて、町内全域で生産と加工を始めた旧徳山村の在来とうがらし「徳山なんば」も紹介した。部長からは貴重な資源を守るとともに、皆さんに広く知ってもらえるようPRに努めてほしいと助言を受けた。

春日地域では、協議会の中に「伝統野菜研究会」を立ち上げて生産振興・販売促進・種の保存を進めていく方針で、農業普及課も引き続き支援していく。



【面談の様子】